



探荷集序



物多き辞と志ゆへ新詞と成も
えてはささむのうらむいそるふく
のれらめつらよあうらむさあひよ
るましくもまろくもの形していか
つれえとも志らける辞も耳あま
今のはあひまのさう後まいつれ
ささあひらんかうかくあさるん我

ふくさくらのちをま(お)の 叟月二
—このちの懐帛を判—たはえん
かりそめの旬はつひよさく—ことちのま
め—あひまぬらちよこさてい
玉も欺る旬ハ荷と掬るのや—あ
まのわくくろむり—ちのえや
あ—まの—る—旬と
ふく—ちぬ人のまのびふせて

ふか—ちなるち—人よとあひ
かり—ま—ま—の菴
宇平公輯む

あゑ十—のき—三月



探荷集

六印

えりやるよ 餌むらぶ小田の原 天府
 えりやみよ けし田のむら 一鷺
 うらやま 芭わらきて 霧の中 強府 浦舟
 夢や 位よ 焼乃と 何のまて 虚舟

七人

宇平 撰

あや足 龍舎 全校



きるやらのし 杉乃下志はく 六窓
麻の角はまのあふけし 杉林強有 歌白
いそのみ 古よ 横の 嗚りりり 月巢
あゝのや 又日の 風も 吹あらし 普成
鬼灯や 笛り おく日乃 舞 浄宮至列 葵主
灯 燈 子 思ひのよ 重りり 交の虫 不塞
るる 白 舞 葉のこも みのま 菊の花 月と里
炭の 由 かり ぬく 霧 峰乃 春 吐月
千巻と 巻 誰の 巻 へりん 小ね 風 葵主

ひと 取 履て 白じ 形く んぬく めを 上流 目丸
うさ け 道こ とも ち 法 雪の へ 走 嵐亭
霧 狩 や とも け とも へ 雪の 山 沙羅

採る春之歌

まの 巻 中 男 けり とも へ へ 月と里
門 巻 や 葉 中 けり 中 とも へ へ 秋 杵
信の 江 や の へ へ 横 一 松 の さ 里 太 齋
元 日 や 一 室 の 巻 へ へ 四 ッ の 海 普 成

川の室や産産一たる淡路寫 駿府 梧泉

そ船の尖まきのもたてて頼り也 駿府 養主

書りこ勢あるもねけさ乃矣 全 首人

海もや山田うさてる川り花 孫圖部 掬斗

とりのうらおとさるる花の春 母領田 松峨

筏たもおんとくく門の春 母領田 甘谷

杉取し志きりよささ河た糸 母領田 月石

あのおも 孫圖部 玉河も 孫圖部 盲人

あくを田んくもははぬ糸 孫圖部 扶老

雪あけて若菜の君や多の色けり 不審

おのりもりの捨料乃若菜か経 梧泉

くさのまを寐さゆ里此いさまの糸 老鳥

雪や奈良乃おぬも古うり花 秋杵

片萩ハ雪の口や 上総 月あつこ 仙臺 徐江

宇くひまの毎糸あましく日私共 仙臺 古道

雪や松のひまより三日の月 を後府内 馬耳

うくひまや糸田の中北宮前 晋成

海濱のさふさふるいや小豆粥 故流

くらとて解さきお丹や妻の水 梧泉
 橋りやあ里しもふー 春ははる 後府 郎娥
 白魚や白糸とくをやうるー 千慮
 聖くくやいふ事お原ー 夫のる おや足
 るも又妻の福はははひとくは 古友
 園乃眼の猶はー 王火や 播の衣 後府 斗南
 一あくせあ二月の露やんやあさく 光鳥
 あくけの小舟出くり 後府 玉宇
 仲の帆とくもくうぬ 上院 雲の神 雲花

お里あふく聖いよー 野と春の月 普成
 ぶりみはんりああきあきのし 班象
 ううこうきあのとーあや はは乃有 郎娥
 智明はまのともとー おろ月 普成
 いのまのー 松を説くや 籠 月 南羅
 ところあやそはくー 四百八十寺 上毛 おやこ
 陽巻の中や田井はは人の夢 上毛 鹽車
 けけりあやそはくー 松を説くや 籠 桐雨
 けけりあやそはくー 松を説くや 籠 沙羅

古のしやもさきゆりち争う事 を別 我倦

何人そ涅槃ありしあはれ鳥辺山 宇平

水より雪の木曾あま 春の風 普成

又のしやもさき居をゆり 春の風 月と星

宿り居は人あき言し 春の風 龍舎

故にハ 当返 生しん たるのうを 玉卮

八宗もゆりし 一木乃 彼家系 梧泉

景よりさきハ 只あつらひありあつ 燕 班象

とほしんしとほしん ちあふ小隊 群人

灯の消ハ 玉の涙とあつらん 扱の籠 不塞

消は灯は籠ふも 自此 鼠うか 月と星

男ども産て 時めく 籠うけ 故流

孫よりまゝなるたふの事 一 籠合 即娥

福系もかくて 幸一 廣一 夕干狩 出羽野庄 有止

出代や 祀難も 元乃 名あつら 次 あも足

今代や 國も 何内の 位をさふ 司丸

お片ア 智乃 腕と ちあふ 上弦 似鏡

菜の ちあふ おくろ 貝かく ちあふ 豆水 即妹

いづらののちこそ世たりりたるを春小菟 人尤
り春りや 花のあも回く水の音 武育中 桂雨
ゆく春りや 野の流るる 礪田り糸 全 柳水
け春りや 松の疾り 一人あらし 何景婢
抱く春ののけたこそゆく 暮る見州 不寤
る風のりめく三月 晦日かよ あやし

太公望賛

あささきをかけて戻るや 春の鷹 全

復之部

ゆめゆめ ちやちや 白かき 松風
香粧の袂 入ぬ 秋杵
散りけし ハナ 蓼主

香取小て

月をと 常の志 宇平
行里平 武士とめ 梧泉
山里に 医者と 矣花
一日の ぬこを 斗南

金屏中 難とお宮のふりらる 女府中 有兔

明やまよおのおまらわ報の歴 全 貫十

あささき飯とやいそん一夜鮫 哥白

か満らわ料の中 白ほさん 葛人

あささき花の四月の牡丹外 女府中 晋成

蛇さえて牡丹のむのうま五糸 女府中 學而

かこさきやなやめはる此牡丹外 充鳥

哀鳴り 折 志ろさ ころ葉糸 沙羅

掌り 傾さるおにほさ 口の葉片 文足

接穂 一 一 一 一 村の若さあ介 女府中 民之

若楓 柳見ゆると 毎や 一 一 一 龍舎

り 一 一 一 一 一 一 一 の若 郎娥

下着 わと 一 一 一 一 一 一 一 司丸

笑 一 一 一 一 一 一 一 一 杜若 李東

米 短く 一 一 一 一 一 一 一 一 燕子花 郎娥

春雨の 一 一 一 一 一 一 一 一 一 故 班象

け 上 の 一 一 一 一 一 一 一 一 一 垣津 幡 石髪

ぬ す 人 と 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 杜若 郎娥

竹の子や傘踏らして 沙羅
 踏らけて妻枕も怨一南良の麻 不寫
 かきりお休け日とる北 懺止 老鳥
 粽ゆふらのとも踏のひとる系 梧泉
 住よりの松もふまゆく田う忍が 一北
 傘ゆゝ人のさみしき田植うね 班象
 身あこのえてほさぬ物をさ苗取 鳳宿
 志つゝさやまき田あさえて富士さ 班石
 高叶や額の高乃青くらさ 故流

あゝささや信ぬ田中のひとら去 蓼阿
 五月る節のふらぬも明うりり星 沙羅
 陸川まて松本も来たり五月る 扇郎
 ささゆふお刺草有る 既の南 掬斗
 五月るやおしつゝるまゆり布 班象
 ゆゝささや晴るや六月十五日 故流
 めもて折 養ゆささくや雨の詠 普成
 七人の名もつらしや 紙性片 おやと
 素るも又一まのむの 晒る赤 夏来

茯苓に滑りきて疾る 照射ふか 蓼主
 有る一の扱もあま月と飛雲 丹波府内 靴此
 けむ一の男と又くぬ めく赤井 斑象
 血本屋のあまり却たく赤鷲水 夷江
 玄菊や豆一時成線 茶雀
 う川蟻や登りつるう川かゝ衣 栢泉
 待らるる七府の雲をひらひ急 蓼主
 ののちや雪の裾世と名まに 吐江
 加賀屋の梅るうう 故流

小室よもいをも 行るうおの形 老鳥
 あゝさともけ水るる水の頁 斑象
 めるるうれかむとたり 富士詣 夫水
 かくやくと日陰も 皇の 月也正
 誰業と又あけて何のま松も 履 班象
 夕立や志くく赤き流テの石 不審
 白るや入舟ひと川人の喜 仙臺 梅堂
 山寺や夕立互の 新君十色 故流
 花の葉小実あき月の 芝の赤 班象

糸見ぬ人もおなり 休をそみり奉 あやじ
普一の鞠 曉てゆふり夕 納涼 普成
おひつゝ又 芥まきまら 清水うね 婆心
手しそ 汲ふところをいつま 苔志うつ そ長府内 金羽
弁仗し かがさしおとん 清きあふ糸 班象
そき 柱の 漣おほる 志う川う苗 投茶
旅人の 土むうちあいに 清水水成 沙羅
虫不し や 松よ一日 泊志の 鳴 班象
親と子乃 隔て歩り 移舟の 志 司丸

川抄や 一細けしる 又の 志を 虫危
ゆき色の かゝても 程りり 茄子汁 文足
人の中や 交際 岐 従者 江 志の 月 石菖
茶 鞆の 壺も おも あり 竹の 月 松我
傍りし 里 寐 夢 ぶりり 志の 月 普成
雅きハ 竹と つひし 志を 竹 ぬ人 を列 ぬる
け 風も 弁し あり 志る 志の 車 奥初余 一 鳳
誰も 志と 志を 志た 志の 志の 志 鬼守
秋 ちらう 志の 志 風 づ 志の 志ひりり 梧泉

おちろく 浪ひとのの 癖の 柳り乳 老鳥
樓乃月 夏 落しき うち 玉う赤 物我
麻の 葉あも 一 野を 拭ふ 法 橋井 夜兔
人の 代よ 廿九日 の こそ とき 春 源の九子 嵐考
法 福川 秋 ぬく ちを おし みる 故流

秋之部

けさの 秋まきの ぬ乃 法 ちを 流 色 くら 文足
ゆき ちを くる せ ちの 燈 や と 船 の 秋 宇平

あまを かく 色 江の 湖 や り みの 秋 郎 城
秋 ちの や 柳 葉 片 の 一 葉 ハ 枯 葵 蓼 主
二 何 ちを せ 高 の あり け け ち の 秋 一 鷺
秋 ちの や 柳 葉 片 の 白 帯 雉 梁
帷子 と ち お 日 え ち 里 け ち 秋 上 院 岸 芦
ちの 秋 ち 骨 け ち 落 ち 橋 凡 巾 夷 江
初 秋 や 柳 ち ち の と ち ぬ の と 不 寒
星 合 ち 空 ち ち 空 の ち ち ち 沙 羅
七夕 や 月 ち ち 空 乃 結 一 一 鳳

七夕と一寐よとの 寝とあおふ
 けしめく 秋の所々
 桐様やし地とあそむ 又大井川
 掃書あよ 地さの 後又舟と里
 昔年のちとそ 人 昔志 酒
 田畑より 都よりあそむ 花やうな
 橋より 水田より 流る 野村
 めき人の 話 ころころ 二 涙き 萩
 君よきて 車 元多 里 萩の 山
 普成 居逸 班象 郎娥 山市 吐論 白雅

ゆめよとの くれとあらし 玉まつ里
 不味もも 秋こそ まさき 意 糸
 君の 為 細き 浦や 盆の 月
 ぼおとハ 盆の 月や 盆 徳月
 隈あそむ 控 糸より 盆乃と
 盆の 月 莫る 盆 盆 浦 盆 盆
 まほろの 盆 替ひ 盆 灯 籠 盆
 燈籠 盆 盆 盆 盆 盆 盆 盆
 さひさの 目 小 さ やうし 盆 盆 盆
 普成 居逸 班象 郎娥 山市 吐論 白雅

煙籠の溜る秋の山をたぐり
即婦
まうりは侍も取葉も 踊か南
葵主
お〜冬ま〜 起るをる 女と里片
^{位列} 秋鴉
を〜の 人小も 角力丸
葛人
角力取 織衣の 家も 扱り利
春江
岩 揺る 母こも 女は 角取
千雀
人の代も 角取
葛人
白 雲 志ろ 角取 角取
松 我
あ〜 雲の中 小折 角取 角取
郎 娥

赤貫て 秋のむ〜や とき 赤川
班象
魚の音や 深き 志つ 羽 羽
^{位列} 羽 白
洪〜を 雲〜 とき 九里
九里
葉 麻も 扱ハ 表どり 雲〜の 夢
班象
ハ 翔や 魚の 眞か 柳の 花
葵主
一羽より 葉〜さひ〜る 層
班象
をの 了や 帆〜を 江
^{位列} 志 鳩
人の中を 目〜 放 生 玉 虎
玉 虎
隈〜も 秋の 癖 たり 月
司 丸

名月やきしとふは、袖に露
 おひき
 明月やひきまはるる花もみち
 沙羅
 名月や海をくりとひ、照る
 鬼子
 空にまはるる物そとりの月
 班象
 名月やくくし物も年水の月
 普成
 いさづき三つ山おんりふの月
 月と星
 明月や露も一時ある、いとつと
 秋叶
 名月や人の心は、都をくく
 翠翁

三味線のを望もあがりふ乃月
 茶雀
 門やさき音もさほしやけぬのと
 葵主
 名月や、秋はあやむる九月
 雪母
 明月やあはれさの、海小舟な
 郎坊
 名月やいとねよ、いと五月音
 宇平
 めいづつや、いと不の、若る、ほ、黄、槐
 故派
 十六おやきの子の、友ハ、月ひと星
 班象
 いさづきや、善ハ、女、浪中、引てけ
 東濟
 野とふ、江と南よ、きぬ、こ、の、形
 およこ

宿備く一礎の衣ふるおの南 不寤
林下く雪やとくくん小枝の枝 遥知
うち出てたれま地衣は石井 枕舎
清き少とよも志く月の方壺
湖と糸おわとくもさよまゆ 鼠腹
糸着て泣きあつらん小夜礎 月も了
時立や一宿くまて松の月 武府中 帰翁
麻さけハおとゆふるさゆまほ非 葵主
頤の骨や鳴く麻の声 あつし

康鳴や筒の清音の園あつ 茶室
荒の音よ美軒山もをぬく 瓠瓜
荒鳴やしそ肺もあまは 秋杵
よせぬハ 笛と笛し 響の荒 周竹
まのくくを里小里や 鳴子籠 茶壺
ひと里の玉のむ長さ 鳴子籠 全
花けし一葉のましある地分が 遠里
よ秋葉くあつらるおよのむかが 鼓壽
鐘平糸の音るあまきり明 不寤

秋の昏 籬も松 魚もたうりり紫 おやむ
こら〜むく 帆むとつうま〜 秋のらま 普成
待つま小い つま下子ね〜 秋の昏 魯例
神招〜 舟のまり〜 秋の昏 月窓
みり〜 羽子突門や 秋れ暮 葵河
ひと〜 ばく 攻りや〜 なとわきの草 草草
解二 葉りふ〜 仕舞に秋の 暮 方壺
是つり〜 反所〜 つ〜 毛 槐北久 竹富
石のさ 習ん げよさよ 秋をん 長月 茶雀

ゆ〜 ち〜 人 亮ひ〜 の 秋 徳 風 梧泉
石 舟 や 帆 石 立し 秋 の 曲 故 詠
軒 多 志 の 長 さ 多 毛 二 や 秋 の 風 全
入る 歯 の 糸 く〜 人 里 物 し あ き ね ぐ を 全
五 六 及 四 石 の 高 さ よ 秋 中 の 水 三 駮
海 と 衝 沖 中 川 や 此 の 魚 魚 文
そ つ 船 や いる 毛 二 赤 さ 多 毛 二 明 一 光 鳥
菊 ふ し 毛 二 是 腐 も ば く 毛 二 山 里 毛 二 沙 羅
白 小 も 又 白 さ 毛 二 別 毛 二 毛 二 の 花 一 北

菊の香しき海濱あつてすおのれ 物我
 朝夕の露も泣くまじく 葉の宿 一路鳥
 負いあの花をもろく 露 菊あひ若 星衣
 百官の都と侍もろく その 葉 故涼
 作麻生と 葉粟もろく 小寺うた 月守
 香啼して 辻都の 虫と ぬ 紅葉が 一北
 けう〜平 房もろく ぬ 夕もみら 故流
 日の國と 秋こもろく 中もみら 一鷺
 米知して 海もろく 夕 花 抵 春 蟻

葉内〜る 花さく〜や 菊 押 梅素
 秋風や 雲わと〜 推の 露時あ 司九
 夕音平 文て 露光の 扱さうれ 普成
 末枯や 家もや〜 花さきまし 花 香
 う〜枯 小の ぬ〜ん〜 家 露ぬ 曳 尾
 露〜 夕 是 露 秋も ころもさき 秋 杵
 け 秋 水 田 屋 平 山 ひと 法 竹 條

冬之部

野らりきて市小花のりかきあり 宇平

口切わりふハ笈也 廬山うら 蓼主

乱と海浦の管屋の小妻久乳 班象

乃とんとととん 小妻のこけア 岷月後田中

空をやーとつあきまに 初時面 蓼主

まきくまの村面追ぬく 石巻うね あやし

いあえんの時るをとりうーツ妻 宇平

牛の子出母おやききて時るうー 伯遊羽松山

赤彩と垂てゆくなり行ーくま 蓼主仙臺

赤土産の十おお利て庚里りり あやし

竹並やうみ又けりりあーハ舞 子真

おところ平海なる山や 留花 班象

暮とこさハ落柴しりあふ 瑞花 岷月

山畑中妻荷人少びー喰と 物我

おうー福とふーくさ床 帝衣が 鬼守

まうーく尻あうりなせる 衾の形 素人

分おやうーくおーり 歌中りな 蓼主

又し暑も控まーし 赤い巨燧 一兆
 くほくや雪井の上もまきたり
 炭小穴の峰眉山月中映しり
 深山小や又登ひちと碎一炭
 炭竈子白水流と住居り
 直下忌や磬小す如とまり
 白雪の尺巻してまー 依押
 采子吹花さ流く 女麻の南
 ありいし小穴糸の祈ら色り
 悟泉 千雀 李蹊 楚雪 岸芦 連文 沙羅 赤也

木々ーや窓へ吹こむ みるま
 こかーや水もどるに水の月
 世の中へ乃ちき庵の落葉う
 帆代子 江葉ちりあむ 追風うか
 月小半 落葉ま 年て 不凍る
 散りて冬とあつと 落葉水 遠知
 限あは物と冬は 中落葉が 山市
 冬の目や雪 雪のあ 旅日記 斗南
 この川ありあるおとま 月を五

前夜中もつゝあつゝぬさこの柳

妻江

寝食ぬ男の巾一乃をとむくを

桃鏡

おまをよと意の副ちまひきふつ

於兔兒

あつちやうとやうはるう鴨

司丸

老智の侍りまて福ぬり小振子音

方壺

咲くともやうと平雪年唱子鳥

塩車

月ひらつ海へふつて 衛り柳

我儀

海へつああま里らん 川ちとる

文西

青いまわいとあままる 荒れ茶

山市

夷請生街嵐の骨もまきりな

文足

茶以ふあこむえ 雲おのまりお

葵主

針もやむ線ある 雲の色

故流

大根の端切よまきや 雲れ声

千雀

白妙の雪うきと 雲後折の月

晋成

眸子血を 灑きり 雲の唇

全

ちつ雪の見糸及と 雲中り星

完来

初雪中交りて二日月おれ

故流

客山星の遠て入り星 雲の竹

とめり

ふまゝと〜と客も席に雪の庵

郎婿

おはるはあまのハまねを 予も佛

吾由

清ひとつ雪もるつ〜きさかふ

郎娥

都出て実志〜雪とみる日小

三駱

城あま〜布といふやまおの雪

班象

多仙や花もた〜まき 高むと

普成

是も又伊きち〜竹や水仙を

連風

多仙や男の提〜をうこ

普成

冬のおや月の糸もハ赤むと里

夢阿

冬の月かくていいつゝるゆ〜ん

笑魚

掲てハ〜まぬ物ゝ冬の月

三駱

傷越るの〜か武士や 冬の月

おやこ

冬の月 襟の木糸と吹きま〜

普成

蕪一把水仙〜け〜悪ひり〜

宇平

物平〜て〜室か〜ん あつ〜布

五柝

橋工おお〜糸〜 石原こほ里

素文

あつ〜さの回廊〜る 五鼓のち

文足

笛ときハ斤袖さあ〜ゆ 沖楽式

廓々

安有中

羽松山

面とまは 松翁 ちる 里 うち

若月 千 ちる といて せく 螺 ちる 月仙

赤んて ひさ ちる 住り 神 獣 司 丸

水 例 千 ちる 声 ちる 鍾 ちる 羽山 如 乞

茶 畑 千 ちる 日 ちる 冬 ちる 秋 杵

懐 千 卵 ちる さん ちる ちる 普 集

ちる 習の 君 ちる ちる 冬 ちる 李 蹊

ちる ちる ちる ちる ちる ちる 郎 娥

猿 八 ちる ちる ちる ちる ちる ちる 葵 主

曠 八 ちる ちる ちる ちる ちる ちる 維 谷

佛 名 ちる ちる ちる ちる ちる ちる 波 心

死 ちる ちる ちる ちる ちる ちる 葵 主

ちる 声 ちる ちる ちる ちる ちる 扶 老

角 ちる ちる ちる ちる ちる ちる 玉 色

煉 掃 ちる ちる ちる ちる ちる ちる 龜 遊

餅 花 ちる ちる ちる ちる ちる ちる 千 慮

み ちる ちる ちる ちる ちる ちる 雙 炉

其 ちる ちる ちる ちる ちる ちる 梧 泉

日ありや柳をあらたの 蝶の塔 夢主
 孫針の白髪ととて 所を小 松茂
 三絃の賣人常人も 羊の暮 故流
 羊天を風中お春立 柳を小 班象
 姐板おーても 春まの 柳うま 秋杵
 わーや都まのきの 松平一 普成
 海山とせりしき 君う 所をうま 沙羅

追加

春

お海まの 翅せあるんまの 鳥 不審
 蝶ーるまの 日れまにまらりり
 あー瀧まの けらるる 龍象
 川 翻して 陽光ふるふ 我駒が
 雲も 星らのまの ちんりり 一路鳥
 志のまの 月とまの 花籠が

苗代やまふある田とあるぬ田 不審
 子とつきて延の藤とあるぬ田 不審
 祖家のとけあるぬ田とあるぬ田 不審
 足摺の西日くく山ゆき 馬耳
 山越とあるぬ田 入る山 樺人 木奴
 挑や三千及入る山 馬耳
 くのくのくくやひらく山 一路鳥
 けきやくくわとあるぬ田とあるぬ田 不審

復

くのくのくく 鏡研とや 白牡丹 馬耳
 を里のみくく ぬ田とあるぬ田 不審
 珠梅とあるぬ田とあるぬ田とあるぬ田 不審
 山とあるぬ田とあるぬ田とあるぬ田 木奴
 目とあるぬ田とあるぬ田とあるぬ田 一路鳥
 流とあるぬ田とあるぬ田とあるぬ田 眉文
 とあるぬ田とあるぬ田とあるぬ田 不審

采女等の卯に時を弁すの礼
不審
ささきささきささきささき
馬耳
おたまたま竹さつさつ井十婦人
巴人
完蟬乃君とていん竹未人
不審
ひらりの妻とておけりも
茅橋の
、

お

神波へ歌のこゝろ(三日)三日日()
不審

調布とていん竹ささきささき
馬耳
おたまたまのささきとていん竹
木奴
くのおおのささきとていん竹
不審
湖あり明月ささきささき
、
鏡つとていん竹ささきささき
、
月ささきとていん竹ささき
、
あさおのささきとていん竹
馬耳
おのささきとていん竹
不審

こころの果てはつらき 礎ふ 不寒

あつたつた

あつたつた ちとちと ちとちと

あつたつた ちとちと ちとちと 一鷺

あつたつた ちとちと ちとちと 早瀬河 馬耳

名

あつたつた ちとちと ちとちと 不寒

あつたつた ちとちと ちとちと 仙衣

あつたつた ちとちと ちとちと 木奴

あつたつた ちとちと ちとちと 不寒

あつたつた ちとちと ちとちと 洞沙

あつたつた ちとちと ちとちと 不寒

あつたつた ちとちと ちとちと 木奴

あつたつた ちとちと ちとちと 一鷺

あつたつた ちとちと ちとちと 杉花

上巻

君影の價や年一の酒日記一覽

標名集終

